校内職員研修会（不祥事防止に向けて）について

平成２５年６月２５日
モラールアップ委員会

１　**研修日時**　平成２５年６月２４日（月）　午後３時５０分から午後４時４０分まで

２　**研修場所**　本校図書館

３　**研修の目的**

教職員のモラール向上を図り，教職員の不祥事を起こさない職場風土をつくるため，職員自らが職員相互の啓発を促進する具体的な研修を企画し，実施する。

４　**研修の対象　全職員**

５　**参加人数　　職員４７名，教育実習生２名**

６　**準備**

年齢や教科等のバランスを考慮し，あらかじめ８つのグループに分けておく。
　各グループに必ず，モラールアップ委員が入り，進行係となる。
　各グループに書記をおく。

７　**展開　進行：教頭**

研修会実施の趣旨の説明（３分）　担当：モラールアップ委員長

⑴　導入「最近，生徒の行動やことばで，いいなぁと感じたこと」（１０分）
　ア　ワークシートを記入してもらう。（２分）
　イ　一人ずつグループ内で発表してもらう。（４分　一人最大３０秒）
　ウ　全体に向けて，数名に発表してもらう。

⑵　ロールプレイ（８分）
　ア　違反セーターを着用している生徒
　　違反セーターを預かろうとする場面設定
　　生徒Ｘ、生徒Ｙ
　　職員Ｅ、職員Ｆ
　イ　授業中寝ている生徒
　　授業中，寝ている生徒を起こそうとする場面設定
　　生徒Ｚ
　　職員Ｇ，職員Ｈ

⑶　事例研究（２０分）
　ア　事例配布（１分）
　イ　ワークシート⑴，⑵，⑶を記入してもらう。（５分）
　ウ　何名かに⑴，⑵について発表してもらう。（２分）
　エ　グループ内で，⑶について意見交換をしてもらう。（１０分）
　オ　いくつかのグループに発表してもらう。（３分）

⑷　感想記入（４分）

⑸　講評（２分）

８　職員の感想

・追っかけすぎることがマイナスになることも。毎回ぶつかることがよいとは限らないという話は，思い当たることがある。変化球を投げられる教員としてゆとり，姿勢が必要。
・報告，連絡，相談って，やはり大切なのかも。相手との距離の取り方は，やはり難しい。相手がどう思っているかを，よくわからないときはなおさらである。
・短時間で実施するにはテーマが重すぎた気がする。とても大切な問題だと思うので，もうすこし時間をかけて研修したい。
・やはり，先輩職員のアドバイスは大変参考になった。しつこい指導と，間を置いて落ち着いてから指導することを，うまく使い分けてやっていきたい。
・学校での指導は，生徒との人間関係づくり，職員間の協力が必要であるという意見がでたが，自分にはまだ不足していると思った。
・日頃忙しくて，話す機会が少ない職員と話すことができるのが一番よい。
・シビアな内容だった。生徒の反抗的態度に対して，のらりくらりと距離を保ちつつ，ダメなことはダメと伝える。そういうことがうまくできるようになるとよいと思った。
・以前同じようなことがあったので思い出した。当時の校長から「こういう気候のときは，生徒もいらいらするから注意するように。」と聞いた直後であった。細かい配慮をすることの大切さを身をもって知った。
・先輩の職員から，教育について語れる機会は新鮮だった。ふだん，教育について語る機会が少ないのでよかった。研修会に参加し，自分を振り返っていかなければいけないことだと思った。
・日頃忙しい職場だが，集まって話をする機会は大事である。これからもいろいろと考えて生徒指導にあたろうと思う。
・「がんばれないから来ている」，「放っておくのも一つか。」，いろいろな職員の話を聞いたり，話せたりしたことで，何か安心した。
・校長の話を聞いて，自分は生徒に正論をぶつけすぎなのかと反省した。もっと場数を踏んで，生徒の気持ちが動くような話し方，生徒とぶつかりすぎないような接し方を身につけたい。
・注意の仕方，教員の資質など，気にするべきことはたくさんあるが，生徒との関係をきちんと築くことが大切なのではないかと改めて感じた。
・いろいろな考えが聞けてよかった。
・しかるばかりではなく，声をかけて，生徒をみている姿勢はみせつづければよいのだなと，他の職員の意見など，よく情報をもらって対応を考えていくことは大切だ。
・短時間だが，いろいろ考えさせられた。ためになる研修会だった。「悪いことは教えながらも，必ずしも，いつも生徒にぶつかることはない。」という校長の言葉は印象的だった。職員同士の連携の大切さにも気づくことができた。
・常に「チーム」で生徒の指導にあたっているという意識を持てるように自律した職員集団でありたいと思う。「厳しさ」と「深み」があれば，「高み」を目指せるはず。馴れ合いのないチーム力で指導にあたりたい。
・いろいろな意見を聞けてよかった。日頃話したことのなかった職員とも話ができてよかった。

・事例研究では，自分がこの場にいたらどうしただろうと，自分の指導を見直すことができる。
・校長が言ったこと。自分を守ること。大切だと思う。
・職員の意見をたくさん聞けてよかった。
・自分は B 教諭のような資質はないが，カッとなったら，人間は何をするかわからないので，十分気をつけなければならないと感じた。もっと多くの職員と情報を共有していきたい。
・とてもためになった。事例をみただけでも，さまざまなことが考えられた。情報の共有やいろいろな予測など，気をつけるべきところは，ものすごくたくさんあることを肝に銘じようと思う。
・手間をかける。しつこさをもつ。いやにならないように生徒と接する。楽しい授業をするようにしていきたい。心と顔で笑える働きをしたい。
・事例からの参加であるが，生徒を殴っても，生徒も職員もいい関係は築けない。何事も関係性づくりからはじめないと，と思う。
・「職員の健康を前提とする指導」という校長の発言に，「すくわれた」職員は多いと思う。
・できれば生徒指導はしたくないと思う。こちらもいやな気分でいらいらするし，眠れなくなることもある。多くの職員で，協力してもらえると気が楽になる。
・自分も生徒の発言に，感情がおさえられなくなることが何度かある。自分がよくやってしまうのは深追いすること。たまには見逃すことも，自分を守ることだと聞いて，気が楽になった。
・研修会に初めて参加した。学校現場でこのような取組が行われていることを知り，非常に重要であり，必要なことだと感じた。様々な事例について，考えを共有すること，先輩職員の意見を聞くことは，教育の質を高める上で大切であると思った。
・適切な指導をするために，職員間で，このような研修会が行われていることを知った。今日の事例だけでなく，多くの場合で，生徒，職員同士のコミュニケーション関係づくり，情報共有は共通して重要であると感じた。
・日々，生徒の指導のことで頭がいっぱいである。自分が想像していなかった反応がかえってくることがほとんどである。このような研修会で，いろいろな職員の話を聞くことができて，とても勉強になった。
・「いたいめにあわないとわからない」というけれど，「いたいめにあってもわからない」のである。だから，「この手段を使えばわからせることができたのに」とは思わないことが大切だと思う。
・本校でも，このような生徒の事例があったので，真剣に考えることができた。校長の「自分が傷つかない距離間」ということば印象的だった。
・ベテランの職員から，むずかしい生徒の対応についての話が聞けて，勉強になった。今後，実践していきたい。
・北風と太陽。傷つくのも給料のうち。その子にとって，何が一番必要かを考える。
・日頃の生徒との人間関係，職員との連絡，情報共有することが，不祥事防止になると痛感した。
・何も知らずに，ある生徒に強くあたってしまったことを反省したことがあった。家庭に複雑

な事情をかかえる子で，その日は授業に対してもやる気がなく，気分も落ちていた。事情を知っていれば，B 教諭も自分も，違った指導ができていたのではないか。

・授業中寝ている生徒を起こす方法は，まだまだ模索中である。ただ，５０分授業で集中力が続かないのはわかるので，２０分間のうち５分程度の休憩（リラックス）タイムをとっている。授業とは直接関係ない話や，ときには楽器を弾くこともある。「起きなさい。」，「昨日は何があったのか。」等の声かけも大切だが，現場の空気を変えて軽くすることも大事と考える。生徒との人間関係の構築をしていきたい。

・生徒の問題行動について，他の職員の意見を聞くことができてよかった。講師として，教師１年目として，生徒とどうかかわっていくか，とまどうシーンが多い。自分の生徒に対する働きかけを振り返り，先輩職員の行動を参考にして，勉強していく。

・生徒の対応はうまくいかないことが多いが，自分に余裕がないときほど，ぶつかることが多いので気をつけたい。校長の対処方法の話に，「なるほどなぁ」と思った。他の職員の意見を聞くことができる機会はよい。

・職員同士のコミュニケーションは，改めて大事であると思った。